

東アフリカ、ケニア・タンザニアにおける野生動物、

特にヒョウと地域住民に関する研究

——ケニア（ナイロビ）・タンザニア（ンゴロンゴロ国立保護区）——

平成 18 年度入学

派遣先国：ケニア・タンザニア

山根 裕美

キーワード：ヒョウ，野生動物保全，ケニア野生動物公社，動物孤児院，

対象とする問題の概要

近年、自然・野生動物保全が世界的に重要な問題として定義されているが、その自然・野生動物と生活の場をともにする人間、コミュニティが存在していることは軽視されがちである。しかしながら、彼らの生活を無視してこの問題の解決はありえない。地域住民の置かれている立場は、自然・野生動物を保全しなければならないという点、自然とともに生活していかなければならないという現実の間で、年々困難なものとなってきている。「野生動物保全先進国」といわれるケニアでは野生動物公社（Kenya Wildlife Service）が、この問題に対してどのような役割をにない、どのような運営をしているのか、また、観光産業から得られる外貨収入をどのように有効利用しているのだろうか。こうした点について調査することは、上記の課題を考える上で重要である。

研究目的

本研究は、自然・野生動物保全と地域住民が直面している問題を明らかにし、地域住民の生活を尊重した自然・動物保全を考えることを目的とする。特に観光客に人気の高い、ヒョウ、ライオンなどといった



大型肉食獣を事例に、それらが地域住民に与える害と共存方法について研究考察を行う。これらの肉食獣が家畜や人を襲うことから生じる、地域住民との摩擦が大きな問題となっているが、その一方では、大型肉食獣の個体数が減少しているため保全していかなければならないという実状がある。この解決策を多面的に考える必要がある。さらに、野生動物には、伝統的、呪術的な役割が与えられている場合もあり、こうしたことも踏まえて、保全の目的とその正当性、地域住民との摩擦の実態を把握すること、さらに、

摩擦の軽減策を考えることが本研究の目的である。

写真 1. 保護区内で野生動物と共に暮らすマサイの人びと

フィールドワークから得られた知見について

今回のフィールドワークでは、ナイロビにある KWS（ケニア野生動物公社）に付属している、動物孤児院と Safari Walk（動物園）で飼育係のボランティアとして働いた。この業務をとおして以下の知見を得ることができた。(1)この2つの施設の KWS における異なる役割。(2)これら施設の存在理由、教育的存在目的について。(3)これらの施設を訪れるケニア人客、ケニア在住外国人客および外国人観光客、それぞれにこの施設を訪れる目的が異なっていること。(4)その運営方法、経営について。

また、KWS は、ケニア内の小学校、中学校に観光教育目的で施設を無料開放したり、ナイロビ市内の教員を集め野生動物保全に関する環境



写真2. ワークショップ風景



写真3. 保護されてきた動物の世話

教育ワークショップを開くなどといった

活動をとおして、環境教育に力を入れ、地域住民、コミュニティに自然・野生動物保全の重要性など広めることに力を入れているが、実際にワークショップに参加したり、小学生たちと施設を見学する経験をとおして、これらの活動の有効性を知ることができた。

動物孤児院においてはケニア各地より持ち込まれる動物孤児について、持ち込まれる背景や状況および飼育・健康管理など様々な側面があり、日本の動物園の教育・繁殖目的とは異なった、ケニア独自の役割を知識として得ることができた。また、それぞれの動物について、その行動・性質について知見を深めることができた。特に、野生下では観察が難しいとされているヒョウを生後10日の個体と、1年8ヶ月の個体の2個体において、その行動および成長過程を観察できたことは大変貴重であり、大きな成果であった。

今後の展開・反省点

今後は、KWS が環境教育に果たしている役割を、実際の活動と過去のデータの両方から時系的におっていききたい。また、大型肉食獣との直接・間接的な摩擦のある地域を訪問し、その実状について知識を深める。マサイ・マラに居住するマサイの人びとと野生動物とのかかわり、また、マルゴリにおけるヒョウの伝統的象徴としての重要性などについて調査を進めていく。将来的には、ケニアに隣接した北部タンザニアまで調査地を広げていく計画である。今回は飼育下のヒョウの観察を行ったので、野生下でのヒョウの観察も行いたい。

今回の反省点としては、ナイロビの動物孤児院において、マサイ・マラより保全されてきた生後約10日のヒョウの子供保全の観察・成長記録に多くの時間をとられたことがあげられるが、これをきっかけに、マサイ・マラにおけるマサイの人びととヒョウとの関係をひとつの大きなテーマとして研究をすすめていきたい。



写真4. ヒョウの子供の成長観察